

令和5年度豊かな森を育てる府民税
事業成果及び評価結果

令和6年10月
京都府農林水産部林業振興課

目次

1. 令和5年度豊かな森を育てる府民税評価結果	2
2. 令和5年度豊かな森を育てる府民税事業成果	6
I 森林の整備及び保全	8
1 森林防災機能強化事業費	8
(1)地域とつくる安心・安全な森整備事業	8
(2)流木等流出防止対策事業	8
(3)山地災害防止対策事業	8
(4)京の木づかい施設整備事業	8
2 豊かな森づくり総合対策事業費	12
(1)次世代につなぐ森づくり事業	12
(2)ふるさとの里山林保全活動推進事業	12
(3)京の森林文化を守り育てる支援事業	12
(4)豊かな森の恵み創造事業	12
II 森林資源の循環利用	17
1 ひろがる京の木整備事業	17
III 森林の重要性の啓発	19
1 豊かな森林継承事業	19
IV 地域振興計画推進事業費	21
V 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	25

1 令和5年度豊かな森を育てる府民税評価結果

京都府農林水産部林業振興課

京都府では、災害防止など森林の持つ多面的機能を維持するため、平成28年度から「京都府豊かな森を育てる府民税」(以下、府民税)を導入しており、第2期となる令和3年度からは、毎年度、事業の進捗や効果を評価・検証することとしました。

この度、令和5年度の府民税事業についての評価にあたり、有識者会議を開催し、「府の事業評価の妥当性、改善点や要望、今後の展開」などについて意見をいただきました。

【有識者会議の評価結果について】

(1) 総括的な評価

<事業全体に対して>

- ・各事業について、地域ニーズに応じて実施されており、到達目標も概ね達成していることから、府の自己評価は妥当であり、森林環境譲与税との役割分担を明確にしなが、今後も継続的に実施されたい

<各事業に対して>

- ・防災・減災対策については、事業メニューの拡充など、きめ細やかな対応ができており、非常に効果的
- ・山地災害危険地区の整備については、単年度の目標は達成できているが、今後は、防災対策をより重点的に進めていく上で、府民税事業で実施すべき箇所やその整備内容について検討していくことが必要
- ・森林整備を促進するためには、目指そうとする森づくりのビジョンを持った上で、森林環境譲与税との役割分担を行い、府民税の効果的な活用につなげる必要
- ・木材利用の普及啓発イベントの参加者に対して、ひろがる京の木整備事業の周知を図るなど、実際木材利用へと繋げていく取組が効果的
- ・森林環境税の徴収が開始されたことから、今後、府民税が担う役割(両税の役割分担)について、分かりやすい資料を作成した上で、情報発信していくことが必要

(2) 府による事業評価と分野別の主な意見

【Ⅰ 森林の整備及び保全】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 府民税事業費の6割を防災・減災対策に活用して、流木等の原因となる危険木を集中的に撤去するとともに、風倒木跡地の整理・植栽等を行い、森林の防災機能の向上に繋げることができた。 ○ 令和5年8月台風第7号災害への応急対応として補正予算を組み、崩壊地の危険木撤去等、災害復旧・予防対策を早急に実施することができた。 ○ 地域住民による人家近くの危険木の現地調査や撤去の計画・実行を支援すると共に、防災意識の向上を図った。 ○ 再造林面積と、苗木生産者による花粉症対策苗木の生産量は昨年度より増加するなど、植栽等への支援の効果は一定認められるが、目標値には届いておらず、さらなる促進が課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共事業が採択されない箇所での実施であり、効果が高く、自己評価も妥当 ○ 災害で発生した支障木は、積極的に搬出・利用いただきたい ○ 未整備の箇所も依然としてあるので、継続的な事業実施が必要 ○ 災害跡地の植栽樹種は、目標とする森林を見据えて選定することが重要 ○ 整備箇所数だけではなく、モニタリングによる追跡調査を行い、質的な評価をすることも重要 ○ 府民税事業の目標を設定して、事業メニューの検討を行うことが必要 ○ 主伐・再造林を進めるには、根本の課題である境界明確化の推進を行うことが必要 ○ 森林整備事業を一層進めていくためには、府が市町村を積極的に支援していくことが重要 ○ 森林整備を促進するためには、目指そうとする森づくりのビジョンを持った上で、森林環境譲与税との役割分担を行い、府民税の効果的な活用につなげる必要がある ○ 京都府としての森林整備の指針をしっかりと示していき、施策もそれに従って取り組むことが必要

【Ⅱ 森林資源の循環利用】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 住宅・民間施設等の木造・木質化、府民が利用する施設への木製品の導入、新たな木製品の開発に対する支援に併せてパンフレットやHPによる広報、府内産木材に係る需給体制等の情報収集、制度説明会の開催などを積極的に行うことで、木材利用の取組件数が増加し、府民が京都の木を身近に感じる機会の創出や、新たな用途開発に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 積極的に進めていただきたい

【Ⅲ 森林の重要性の啓発】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 森林環境学習や木材を活用したワークショップを開催するとともに、商業施設への展示なども活用し、啓発活動を行うことができた。 ○ 関係機関とも連携し、イベントのPR等について、WEBサイトやSNS等を活用した広報を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ たくさんの参加者がおり、非常に評価できる ○ 木材利用の普及啓発イベントの参加者に対して、ひろがる京の木整備事業の周知を図るなど、実際の木材利用へと繋げていく取組が効果的

【IV 広域振興局枠】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 振興局が地域の特色や地域住民のニーズに応じ、森林保全や木材利用等の啓発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イベントの参加者からは高い評価をもらっており、このまま続けることが妥当

【V 市町村交付金】

事業評価	有識者会議の主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ○ 主に防災・減災対策に活用し、地域のニーズに応じた森林整備等の対策に対応した。 ○ 里山及び放置竹林における森林整備や保全活動に活用し地域の要望に対応できた。 ○ 木質化・木育、森林環境学習による普及啓発など、地域課題に応じた取組を促進できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 専門職員が非常に少ない、または不在で実行体制が充分でない市町村へは、府が積極的にサポートしていくことが必要

(3) 指標と目標達成率

使途分野	指標	R5年度 実績値/目標値	R5年度 達成率	R5年度までの実績値 /5年間(R3-R7)の目標値
I 森林の整備及び 保全	1-①山地災害危険地区の整備	46箇所/20箇所	230%	117箇所/100箇所
	1-②溪流における災害の未然防止	49箇所/20箇所	245%	128箇所/100箇所 ※内、山地災害危険地区(100箇所)
	1-③災害防止のための森林整備	298ha/200ha	149%	664ha/1000ha ※効果が発揮される流域面積
	2-①再造林への補助実績	52ha/88ha ※	59%	162ha/445ha ※内、府民税実績(30ha)
	2-②花粉症対策苗木の生産量	5.4万本/6.5万本	83%	8.1万本/31.5万本 ※R4年度から苗木生産を開始
	2-③里山林の整備	54箇所/60箇所	90%	169箇所/300箇所
	2-④里山学習の実施			3箇所(3箇所) ※()はR4実績
	2-⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備	32箇所/30箇所	107%	122箇所/150箇所
II 資源の循環利用	①府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●建物型 住宅タイプ 162件 1,697㎡ (150件 1,822㎡) 非住宅タイプ 13件 213㎡ (6件 143㎡) 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など ●木製品型 導入支援タイプ 55件 (35件) 開発支援タイプ 5件 (7件)件 		※()はR4実績
III 森林の重要性の啓発	①森林の多様な機能についての府民理解の促進(イベント参加者)	712人/600人	119%	1,742人/3000人

【参考 有識者会議について】

(1) 有識者会議の開催 令和6年8月7日

・令和6年8月7日 令和5年度事業実績と評価

(2) 有識者会議のメンバー

氏名	分野	役職等
あいこう まさとし 愛甲 政利	木材利用	(一社)京都府木材組合連合会副会長
くりやま こういち 栗山 浩一	学識経験者 (環境経済)	京都大学大学院農学研究科教授 (座長)
しのべ ゆきお 篠部 幸雄	府民協働	京都森林インストラクター会 会長
ながしま けいこ 長島 啓子	学識経験者 (森林計画)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科教授
みよし いわお 三好 岩生	学識経験者 (防災関係)	京都府立大学大学院生命環境科学研究科准教授
もりい かずひこ 森井 一彦	森林組合	京都府森林組合連合会代表理事専務

(五十音順・敬称略)

2 令和5年度豊かな森を育てる府民税 事業成果

分野	事業名等	指標
I 森林の整備 及び保全	1 森林防災機能強化事業費	①山地災害危険地区の整備 ②溪流における災害の未然防止 ③災害防止のための森林整備
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	
	(2) 流木等流出防止対策事業	
	(3) 山地災害防止対策事業	
	(4) 京の木づかい施設整備事業	
	森林防災機能強化事業費 (R5年台風7号被害)	
I 森林の整備 及び保全	2 豊かな森づくり総合対策事業費	①再造林への補助実績 ②花粉症対策苗木の生産量 ③里山林整備 ④里山学習の実施 ⑤地域文化と関わる社寺の森等の整備
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	
II 森林資源の 循環利用	ひろがる京の木整備事業	—
III 森林の 重要性の啓発	豊かな森林継承事業	森林の多様な機能についての府民理解の促進
IV	地域振興計画推進事業費	—
V	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	—
	実績写真	

【事業実績額内訳】

分野	事業名等	実績額（千円）
I 森林の整備及び保全	1 森林防災機能強化事業費 （当初予算）	343,000
	(1) 地域とつくる安心・安全な森林整備事業	17,279
	(2) 流木等流出防止対策事業	84,321
	(3) 山地災害防止対策事業	125,000
	(4) 京の木づかい施設整備事業	116,300
	森林防災機能強化事業費 （R5年台風7号被害）	100,000
	2 豊かな森づくり総合対策事業費	97,679
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	30,974
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	27,420
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	29,999
(4) 豊かな森の恵み創造事業	9,286	
計		540,681
II 森林資源の循環利用	ひろがる京の木整備事業	96,479
III 森林の重要性の啓発	豊かな森林継承事業	20,712
IV 広域振興局枠	地域振興計画推進事業費	9,850
V 市町村交付金	豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業	199,987
計（当初予算額798,993千円）		867,709

※端数処理の関係で各事業の実績額の計と合計が一致しない場合があります

※本実績額は、事務費等を含むため、各事業ページの事業成果の事業費とは一致しません

令和5年度京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全																									
事業名	I-1-①②③ 森林防災機能強化事業費	黒：当初予算事業 青：9月補正予算事業（令和5年台風第7号被害）																								
事業概要	<p>1 目的</p> <p>近年の多発する豪雨や台風災害に備え、流木被害や倒木被害からの防災対策を強化するため、風倒木被害からの復旧、流木の原因となる危険木・堆積土砂の除去だけでなく、今後の豪雨等による二次災害の未然防止を図り、市町村からの要望を受けて、住民と一体となって災害に強い森づくりを推進する。 令和5年台風第7号により被災した山林等の早急な復旧及び災害防止対策（流木や倒木のおそれのある危険木の除去、森林整備等）を実施する。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業 地域住民による森林整備活動を支援し、安心・安全の森を未来へ引き継ぐ。</p> <p>(2) 流木等流出防止対策事業 流木の原因となる危険木の除去し、森林機能の向上を図る。</p> <p>(3) 山地災害防止対策事業 人家裏等の森林において、風倒木や倒木の恐れのある危険木の除去、植栽し、森林機能の向上を図る。</p> <p>(4) 京の木づかい施設整備事業 木製構造物の設置等を行うとともに、地域住民が親しめる森林管理環境を整備し、府内産木材の利用拡大と持続的な森林管理による災害予防対策の強化を図る。</p> <p>3 事業実績（R5年度）</p> <p>・当初予算事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">事業区分</th> <th style="text-align: center;">事業費</th> <th style="text-align: center;">主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業</td> <td style="text-align: right;">17,279千円</td> <td>・地域住民による危険木の撤去 25箇所（17箇所）</td> </tr> <tr> <td>(2) 流木等流出防止対策事業</td> <td style="text-align: right;">84,321千円</td> <td>・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 11箇所（11箇所）</td> </tr> <tr> <td>(3) 山地災害防止対策事業</td> <td style="text-align: right;">125,000千円</td> <td>・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 8箇所（4箇所）</td> </tr> <tr> <td>(4) 京の木づかい施設整備事業</td> <td style="text-align: right;">116,300千円</td> <td>・森林管理環境の整備 13箇所 ・木製構造物の設置 5箇所（5箇所）</td> </tr> </tbody> </table> <p>・9月補正予算事業</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">事業区分</th> <th style="text-align: center;">事業費</th> <th style="text-align: center;">主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 流木等流出防止対策事業</td> <td style="text-align: right;">53,000千円</td> <td>・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8箇所（7箇所）</td> </tr> <tr> <td>(2) 山地災害防止対策事業</td> <td style="text-align: right;">35,500千円</td> <td>・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 4箇所（2箇所）</td> </tr> </tbody> </table>		事業区分	事業費	主な内容	(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業	17,279千円	・地域住民による危険木の撤去 25箇所（17箇所）	(2) 流木等流出防止対策事業	84,321千円	・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 11箇所（11箇所）	(3) 山地災害防止対策事業	125,000千円	・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 8箇所（4箇所）	(4) 京の木づかい施設整備事業	116,300千円	・森林管理環境の整備 13箇所 ・木製構造物の設置 5箇所（5箇所）	事業区分	事業費	主な内容	(1) 流木等流出防止対策事業	53,000千円	・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8箇所（7箇所）	(2) 山地災害防止対策事業	35,500千円	・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 4箇所（2箇所）
事業区分	事業費	主な内容																								
(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業	17,279千円	・地域住民による危険木の撤去 25箇所（17箇所）																								
(2) 流木等流出防止対策事業	84,321千円	・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 11箇所（11箇所）																								
(3) 山地災害防止対策事業	125,000千円	・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 8箇所（4箇所）																								
(4) 京の木づかい施設整備事業	116,300千円	・森林管理環境の整備 13箇所 ・木製構造物の設置 5箇所（5箇所）																								
事業区分	事業費	主な内容																								
(1) 流木等流出防止対策事業	53,000千円	・流木の原因となる危険木の撤去、簡易構造物の設置 8箇所（7箇所）																								
(2) 山地災害防止対策事業	35,500千円	・風倒木等の危険木の撤去、植栽工、簡易構造物の設置 4箇所（2箇所）																								
※()は山地災害危険地区の整備箇所の内数																										

・当初予算事業

(1) 地域とつくる安心・安全な森整備事業：地元主体の危険木の除去（京都市）



実施前



実施後

(2) 流木等流出防止対策事業：流木の原因となる危険木の除去（舞鶴市）



実施前



実施後

(3) 山地災害防止対策事業：人家裏等の危険木の除去（亀岡市）



実施前



実施後

(4) 京の木づかい施設整備事業：
森林管理環境の整備（福知山市）



実施後

木製構造物の設置（京丹後市）



実施後

・ 9月補正予算事業

(1) 流木等流出防止対策事業：流木の原因となる危険木の除去（綾部市）



被災状況



危険木状況

(2) 山地災害防止対策事業：危険木の除去（福知山市）



危険木状況



危険木状況

指標	R5年度 実績値／目標値（達成率）	R5年度までの実績値 ／5年間の目標値
I-1-① 山地災害危険地区の整備	46箇所／20箇所（230%）	112箇所／100箇所
I-1-② 溪流における災害の未然防止	49箇所／20箇所（245%） ※内、山地災害危険地区（40箇所）	128箇所／100箇所 ※内、山地災害危険地区（100箇所）
I-1-③ 災害防止のための森林整備	298ha／200ha（149%） ※(1)～(4)のうち森林整備により 効果が発揮される流域面積	664ha／1000ha ※(1)～(4)のうち森林整備により 効果が発揮される流域面積

自己評価

1 上記達成率となった理由

I-1-① 山地災害危険地区の整備数

I-1-② 溪流における災害の未然防止

- ・ 近年の豪雨災害等による地域住民の災害防止意識の向上を受け、事業要望が多数あったため目標値を大きく上回ることができた。
- ・ 被災した現場を中心とし、災害復旧及び未然対策の要望があった箇所について実施した。

I-1-③ 災害防止のための森林整備

- ・ 保安林機能向上の効果が発揮される流域を保全するため、風倒木等の危険木対策や植栽工等の森林整備を実施し、概ね目標面積を達成することができた。
- ・ 台風により危険木が発生した流域において、保安林の機能向上を図るため、危険木対策や植栽工等の森林整備を実施した。

2 地域住民や実施主体の意見

- ・ 事業区分(1)(2)については、地域からの提案を基に事前協議を行い事業内容を決定しているため完了後の評価は高かった。また、その他の事業においても地域の森林整備等が進み、好評を得ている。

	<p>3 今後の事業の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・府内の山地災害危険地区（合計5,000箇所）の中で、保全対象や荒廃状況等を鑑みて優先度の高い箇所が約700箇所存在している。そのうち、<u>国庫事業も含めて約350箇所の整備が完了しているが、依然として未整備の箇所が残っており、事業要望も多い。</u>また、令和5年8月台風第7号災害では、<u>山地災害危険地区未指定箇所や危険度ランクが低い箇所においても災害が発生していたことから、山地災害危険地区の見直しを行うとともに、引き続き整備を進めていく必要がある、事業を継続していきたい。</u> ・地域への補助事業については、今後の方向性を検討する基礎資料とするため、<u>事業後に聞き取りを行うなど、地域住民の評価や意見を具体的に確認していきたい。</u> ・山地災害防止対策事業については、<u>風倒木対策・植栽を主として実施し効果を上げて</u>いる。また、<u>地域ニーズを把握し、令和6年度から当該事業を拡充しメニューを追加したため、</u>今後は危険木の伐採後に<u>点在的に残存する立木の危険回避のための更新伐が実施可能</u>とした。 今後更なる災害防止のための森林整備を推進していく。
<p>評価委員会 の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業が採択されない箇所での実施であり、効果が高く、自己評価も妥当 ・災害で発生した支障木は、積極的に搬出・利用いただきたい ・未整備の箇所も依然としてあるので、継続的な事業実施が必要 ・災害跡地の植栽樹種は、目標とする森林を見据えて選定することが重要 ・整備箇所数だけでなく、モニタリングによる追跡調査を行い質的な評価をすることも重要 ・府民税事業の目標を設定して、事業メニューの検討を行うことが必要

令和5年度京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 用途分野	I 森林の整備及び保全															
	III 森林の重要性の啓発															
事業名	I-2-①②③④⑤ 豊かな森づくり総合対策事業費															
事業概要	<p>1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再造林等への支援及び少花粉スギ・ヒノキの種子生産体制を整備することで、森林資源の循環利用と花粉症対策苗木の安定供給を推進する。 ・京都モデルフォレスト運動促進の一環として、放置され荒廃した里山の基盤整備、森林学習活動の指導者育成や里山保全活動を支援する。 ・地域文化と深く結びついて大切に守られてきた森林や樹木の保全活動を支援し、京の森林文化を将来の府民に伝える取組を推進する。 ・地域資源を活用した様々な特用林産物の生産振興により、農山村における地域経済に寄与するとともに就労の場の確保を促進する。 <p>2 内容</p> <p>(1) 次世代につなぐ森づくり事業 森林資源の循環利用による、豊かな森づくりを進めるため、①再造林を促進する植栽、獣害対策及び下刈りへの支援、②花粉症対策苗木の安定供給を図る採種園の整備、③再造林・保育の低コスト化を検証するモデル林の造成を実施</p> <p>(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業 京都モデルフォレスト運動への府民参加の裾野を拡大し、府民ぐるみの森林づくりを更に推進するため、地域住民が森林保全活動を行うための里山林整備、「森林保全研修」※修了者による里山学習活動を支援 ※林業大学校による森林ボランティア等を対象にした林業体験等の現地研修</p> <p>(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業 社寺の森や文化伝説の森、伝統行事・伝統産業を支えてきた森、地域のシンボルとなっている名木古木など、地域住民や保全団体が行う森林や樹木の保全活動を支援</p> <p>(4) 豊かな森の恵み創造事業 特用林産物の生産振興を通して、森林の公益的機能の維持増進を図るため、①生産にかかる基盤整備及び施設整備への支援、②漆園を造成</p> <p>3 事業実績（R5年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業区分</th> <th>事業費</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 次世代につなぐ森づくり事業</td> <td>23,974千円</td> <td>①再造林を促進するための植栽支援：30.47ha、獣害防護柵：11,067m、下刈り：35.98ha ②採種園（花粉症対策品種）の造成：0.6ha ③モデル林の造成：1.0ha</td> </tr> <tr> <td>(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業</td> <td>27,420千円</td> <td>①里山林整備 42箇所 ②里山林保全活動支援 12団体 ③里山学習支援 3団体</td> </tr> <tr> <td>(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業</td> <td>29,999千円</td> <td>①社寺の森の保全 19事業 ②伝統行事の森の保全 2事業 ③名木古木の蘇生対策 11事業 計32事業</td> </tr> <tr> <td>(4) 豊かな森の恵み創造事業</td> <td>9,286千円</td> <td>・漆園造成 2箇所 ・生産基盤整備 7箇所 ・生産施設整備 3箇所</td> </tr> </tbody> </table>	事業区分	事業費	主な内容	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	23,974千円	①再造林を促進するための植栽支援：30.47ha、獣害防護柵：11,067m、下刈り：35.98ha ②採種園（花粉症対策品種）の造成：0.6ha ③モデル林の造成：1.0ha	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	27,420千円	①里山林整備 42箇所 ②里山林保全活動支援 12団体 ③里山学習支援 3団体	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	29,999千円	①社寺の森の保全 19事業 ②伝統行事の森の保全 2事業 ③名木古木の蘇生対策 11事業 計32事業	(4) 豊かな森の恵み創造事業	9,286千円	・漆園造成 2箇所 ・生産基盤整備 7箇所 ・生産施設整備 3箇所
	事業区分	事業費	主な内容													
	(1) 次世代につなぐ森づくり事業	23,974千円	①再造林を促進するための植栽支援：30.47ha、獣害防護柵：11,067m、下刈り：35.98ha ②採種園（花粉症対策品種）の造成：0.6ha ③モデル林の造成：1.0ha													
	(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業	27,420千円	①里山林整備 42箇所 ②里山林保全活動支援 12団体 ③里山学習支援 3団体													
	(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業	29,999千円	①社寺の森の保全 19事業 ②伝統行事の森の保全 2事業 ③名木古木の蘇生対策 11事業 計32事業													
	(4) 豊かな森の恵み創造事業	9,286千円	・漆園造成 2箇所 ・生産基盤整備 7箇所 ・生産施設整備 3箇所													

(1) 次世代につなぐ森づくり事業



植栽補助（京都市）



採種園の整備（少花粉ヒノキ）

(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業



里山学習支援（京都市）



里山林整備（綾部市）
左：整備前、右：整備後

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業



施工前



施工後

守谷神社の台風被害木の根株撤去（京都市）



結城神社のスギ古木蘇生治療（舞鶴市）



松ヶ崎「妙法」送り火の抵抗性アカマツ林再生（京都市）

(4) 豊かな森の恵み創造事業



漆パイロット園地整備（福知山市）

指標	R5年度 実績数量／目標数量（達成率）	R5年度までの実績数量 ／5年間の目標の総量
I-2-① 再造林への補助実績（※1）	52ha／88ha（59%） （内、府民税実績30ha）	162ha／445ha
I-2-② 花粉症対策苗木の生産量（※2）	5.4万本／6.5万本（83%）	8.1万本／31.5万本
I-2-③ 里山林の整備	54箇所／60箇所（90%）	169箇所／300箇所
I-2-⑤ 地域文化と関わる社寺の森等の整備	32箇所／30箇所（107%）	122箇所／150箇所

※1 再造林率は段階的に引き上げることとしており、年度ごとの目標値は次のとおりとしている
R3：61ha、R4：74ha、R5：88ha、R6：103ha、R7：119ha 5年間の目標の総量：445ha

※2 花粉症対策苗木の生産量の目標は、国の花粉発生源対策推進方針に定める、令和14年度における花粉症対策苗木の割合7割を達成するために必要な値としている。
R3：0本、R4：2.5万本、R5：6.5万本、R6：8.5万本、R7：14.0万本 5年間の目標の総量：31.5万本

※（ ）はR4実績

指標	R5年度実績
I-2-④ 里山学習の実施	3箇所（3箇所）

1 上記達成率となった理由

I-2-① 再造林への補助実績

・再造林の実績は令和4年度から増加したものの、依然として挿植や柵の補修などに費用が多くかかることから、多くの森林所有者は再造林に消極的である。また、積極的に再造林を行おうとしている林業事業体においても、主伐候補地の調査や森林所有者との調整等に時間を要したため、目標が下回る結果となった。

I-2-② 花粉症対策苗木の生産量

・令和2年度から、花粉症対策苗の生産に必要な種子を苗木生産者に配布したところであり、令和4年度から花粉症対策苗木の生産が開始された。（種子から苗木生産まで2年かかる）
・花粉症対策苗木は、再造林を行う林業事業体からの発注に応じて生産しており、令和5年度においては、上記理由により再造林が目標を下回ったため、生産量も目標を下回る結果となった。

I-2-③ 里山林の整備

・各地域で一定のニーズはあるものの、コロナ禍以降、地域の保全活動が縮小されたことに伴い、これに向けた里山林整備の要望も引き続き低調な状況が続いており、目標を下回る結果となった。

I-2-④ 里山学習の実施

・依然として一定数の事業要望があり、里山学習の着実な実施に繋がっている。

I-2-⑤ 地域文化と関わる社寺の森等の整備

・多数の事業要望があったため、予算の範囲で目標値を上回ることができた。
（R5は要望のあった58件のうち、32件を採択（採択率55%））

2 地域住民や実施主体の意見

(1) 次世代につながる森づくり事業

- ・再造林後に必要となる獣害対策も支援の対象なりありがたいが、防護柵を設置しても、破損箇所からシカ等が侵入し食害が発生している植栽地もある。
- ・国の補助を受けることができる主伐・再造林一貫作業は、花粉症対策苗木による再造林が必須であり、また、花粉症対策苗木による再造林を望む森林所有者もいるので、花粉症対策苗木の生産は必要である。

(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業

- ・本事業を通して地域住民の森林への関心が高まったことや整備活動をしていくための基盤整備が進んだことで、各地域のこれまで放置されていた荒廃森林の整備が少しずつ進んできたが一方で、整備が進んでおらず課題を抱える地域もあるため、継続して支援が必要である。

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業（事業アンケート結果）

- ・成果目標：93%の実施団体が森林等の保全対策について、当初目標を達成したと回答
- ・波及効果：96%の実施団体が景観が良くなり、安心して森林に入れるようになり、地域活動が活発になったなど、波及効果があったと回答

(4) 豊かな森の恵み創造事業

- ・特用林産物の生産を通して、地域の里山林の保全に貢献できた。

3 今後の事業の方向性

(1) 次世代につながる森づくり事業

- ・本年度から、鳥獣害防護柵の修繕について支援の対象としたところ。
- ・林業事業体における主伐・再造林に対する意欲の向上を図るため、再造林経費の削減に資する一貫作業と低密度植栽の普及を進めるとともに、他の財源による再造林を要件とした主伐への支援と本事業を併せた主伐・再造林の一体的な支援について、PRするとともに、主伐適地の情報を府から林業事業体に提供するなどし、主伐・再造林のさらなる促進を図る。
- ・主伐後の再造林を必須とする制度である「特に効率的な施策が可能な森林の区域」について将来的に林業経営が継続できる箇所での設定が進むよう、ゾーニングに資する高精度な森林情報を提供し、国の補助事業の補助率が高上げされるメリットの周知とあわせ、市町村へ引き続き働きかけを行う。
- ・主伐・再造林のさらなる促進と併せて、花粉発生源対策を進めていくため、一貫作業の普及に努めるとともに、生産者が花粉症対策苗木を安定的に生産できるよう、引き続き苗木生産に必要な種子を生産する。

(2) ふるさとの里山林保全活動推進事業

- ・本事業の取組がモデルフォレスト活動にもつながっていくよう、引き続き、公募により広く地域住民に里山林保全の取組を呼びかけていく。
- ・コロナ禍で住民協働の里山林活動があまりできなかった地域については、積極的に事業実施を呼びかけて、里山林活動の再開を促していく。

(3) 京の森林文化を守り育てる支援事業

- ・毎年予算を大きく上回る事業要望があり、府内各地で依然としてニーズがあることから、引続き事業を継続する。
- ・専門家アドバイザー派遣の制度を設けており、積極的に活用して円滑な事業のサポートを行っていく。
- ・地域住民に身近な森が多いことから、豊かな森を育てる府民税活用事業であることをPRする木製看板を現地に設置して、広く府民に周知を図る。
- ・社寺の森や名木古木などは、府民全体の文化資産であるため、地域住民に対して、文化資産としての保全の重要性を意識付けるとともに、府民の文化意識の向上につながるよう普及啓発に努める。

(4) 豊かな森の恵み創造事業

- ・生産基盤等の整備にかかる補助事業については、事業要望も多く、生産者の意欲向上にも寄与していることから、継続して実施する。
- ・漆園地の造成については、漆の安定供給体制を構築するため、担い手の育成も行いながら継続して実施する。

評価委員
会の意見

- ・主伐・再造林を進めるには、根本の課題である境界明確化の推進を行うことが必要
- ・森林整備事業を一層進めていくためには、府が市町村を積極的に支援していくことが重要
- ・森林整備を促進するためには、目指そうとする森づくりのビジョンを持った上で、森林環境譲与税との役割分担を行い、府民税の効果的な活用につなげる必要がある
- ・京都府としての森林整備の指針をしっかりと示していき、施策もそれに従って取り組む必要がある

令和5年度京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	Ⅱ 森林資源の循環利用									
事業名	Ⅱ-1 ひろがる京の木整備事業									
事業概要	<p>1 目的 住宅や民間の商業施設等の木造・木質化とともに、多くの府民等が利用する施設への木製品の導入等を支援し、府民が京都の木を身近に感じる環境づくりと地球温暖化の防止及び森林資源の循環利用を促進する。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 建物型</p> <p>①住宅タイプ 住宅の木造・木質化を行う工務店（府の認証を受けた「緑の工務店」）を支援</p> <p>②非住宅タイプ 商業施設やオフィス等民間施設の木造・木質化を行う事業者（施主）を支援</p> <p>③普及啓発 建築物への府内産木材の利用拡大に向けた広報活動への支援や情報収集等を実施</p> <p>(2) 木製品型</p> <p>①木製品導入支援タイプ 民間の府民利用施設への木製品の導入を支援</p> <p>②開発支援タイプ 木材加工業者等による木製品の新規開発・PRを支援</p> <p>3 事業実績（R5年度）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">事業区分</th> <th style="width: 25%;">事業費</th> <th style="width: 50%;">主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 建物型</td> <td style="text-align: center;">70,773千円</td> <td>上記2（1）のとおり</td> </tr> <tr> <td>(2) 木製品型</td> <td style="text-align: center;">25,362千円</td> <td>上記2（2）のとおり</td> </tr> </tbody> </table> <p>(1) 建物型</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>住宅・民間施設等への 木造・木質化への支援 京都市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>民間施設の木造・木質化の 優良事例表彰</p> </div> </div>	事業区分	事業費	主な内容	(1) 建物型	70,773千円	上記2（1）のとおり	(2) 木製品型	25,362千円	上記2（2）のとおり
事業区分	事業費	主な内容								
(1) 建物型	70,773千円	上記2（1）のとおり								
(2) 木製品型	25,362千円	上記2（2）のとおり								

(2) 木製品型



府民が利用する施設への木製品導入への支援
(イオンモール桂川の木育スペース)



府内産木材を活用した木製品の
新規開発への支援
(北山丸太を活用したパーティション)

※ () はR4実績

指標	R5年度実績
II-1 府民が京都の木を身近に感じる環境づくり	(1) 建物型 住宅タイプ 162件 1,697㎡ (150件 1,822㎡) 非住宅タイプ 13件 213㎡ (6件 143㎡) 優良事例表彰・パンフレット・HP作成など (2) 木製品型 導入支援タイプ 55件 (35件) 開発支援タイプ 5件 (7件)

自己評価

1 上記実績となった理由

II-1 府民が京都の木を身近に感じる環境づくり

- ・府内産木材の利用促進を図るため、本事業をはじめ、他財源により実施している、府民の木材利用に係る気運醸成を図る取組や川下の需要を核とした府内産木材の需給体制の構築への支援などの効果が出てきており、府内産木材の需要量が着実に増えてきている。
- ・令和5年度は、本事業について、住宅において梁などの横架材へ府内産木材を利用した場合や、川上から川下までの事業者グループ間で流通した府内産木材を利用して建築物を整備した場合の補助率の加算を行う制度拡充により他事業と連携したことで、両事業の活用が増加するなど、安定供給体制の構築に寄与した。
- ・本事業の広報について、府内産木材の活用事例について優良事例の表彰やパンフレット・HPなどにより、木材の魅力を府民へ広くPRしたほか、事業者への制度説明会の開催等を引き続き実施したことにより、今年度の取組件数が増加し、事業の効果がより現れている。
- ・木製品型では、多くの府民が利用する保育園や店舗などの民間施設へ支援を実施するなど、支援件数が前年度に比較して約1.5倍に増加した。
- ・府内産木材を利用した新たな木製品の開発に対する支援により、新たな用途開拓に繋がった。

2 地域住民や実施主体の意見

- ・事業を実施した事業者からは、「府民の森林・木材への関心が高く、支援の活用は顧客獲得に有効だった」、施設の利用者等からは、「自然素材である木を身近に感じられる機会が増えた」、「木材の魅力を子供に感じさせられる機会ができた」との感想が寄せられ、府民や事業者のニーズに応えた事業が実施できている。
- ・木材製品の開発を行う事業者の多くから「自社製品に府内産木材の魅力を加えるといった新たなチャレンジができた」との意見が聞かれているところであり、府内産木材の新たな用途開発に繋がっている。

3 今後の事業の方向性

- ・令和4年度の「京都府産木材の利用等の促進に関する条例」の施行や「京都府産木材の利用の促進に関する基本方針」の策定を受け、住宅・民間施設の木造・木質化等へ重点的に支援する。
- ・令和6年度は、住宅への府内産木材の利用に新たに取り組む事業者に対する補助率の加算や、集客効果の高い民間施設での木製品の導入に対し、支援の上限額を拡充するなど、府内産木材のさらなる需要拡大の取組を推進する。

評価委員会の意見

- ・積極的に進めていただきたい

京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	Ⅲ 森林の重要性の啓発	
事業名	Ⅲ 豊かな森林継承事業費	
事業概要	<p>1 目的</p> <p>府民参加の森林づくりが進むよう、活動指導者や次代を担う青少年を育成し、災害防止機能など森林の多様な機能に対する府民理解を促進する。</p> <p>2 内容</p> <p>森の魅力を伝えるため、府民参加の森林整備をはじめ、木材利用を促進するセミナーや木製品展示、林業技術のPRを行うとともに、若者が森林に親しみ大切さを学ぶことで豊かな森林を次世代に継承できるよう、子ども向けの木育イベントや森林学習の交流会、京都府産材活用の設計コンペを実施</p> <p>3 事業実績（R5年度）</p>	
	事業区分	事業費
	豊かな森林継承事業	17,112千円
		<ul style="list-style-type: none"> ・Woodyコンテスト作品応募57名 ・森林等の魅力を発信するイベント開催 【10イベント、計432名参加】 森林学習会、商業施設等での木材利用啓発イベント(3回)、Woodyコレクション2024への出展、竹林整備新技術実演会、林業や木材加工魅力PRイベント、漆を使った草木染体験、花粉の少ないスギを学ぼう講座と秋の味覚体験、漆の絵付け体験 ・京都山キッズ交流会開催（京都府立府民の森ひよし）計223名参加 ・京都モデルフォレスト運動支援強化事業
		
	<p>京都山キッズ交流会（府民の森ひよし）</p>	

指標	R5年度 実績値／目標値（達成率）	R5年度までの実績値 ／5年間の目標値
Ⅲ 森林の多様な機能についての 府民理解の促進（イベント参 加者）	712人／600人（119%）	1,742人／3000人

1 上記達成率となった理由

Ⅲ 森林の多様な機能についての府民理解の促進（イベント参加者）

- ・多様なイベントの開催により、令和5年度における目標値に対し119%の達成率となった。また、5年間の目標値に対しては58%の達成率となっているが、コロナ情勢におけるイベント開催の中止や規模縮小を余儀なくされたことが要因である。

2 地域住民や実施主体の意見

- ・Woodyコンテストは、建築を学ぶ学生のモチベーションを上げるとも良い取り組み。是非継続してほしい。
- ・木材利用啓発イベントの参加者のうち9割の方が北山丸太を自宅やオフィスなど生活に取り入れたいと感想を述べていた。
- ・漆を使った草木染体験参加者からはきれいに染め上がり大変喜ばれており、また参加したいと反響があった。
- ・京都山キッズ交流会では、森林散策を通して木々や生き物と触れ合うことができ、貴重な体験となったと多くの声があった。

3 今後の事業の方向性

- ・各種イベントが好評であり、引き続き多くの府民が森林の重要性を体感する機会を創出するため、継続して実施する。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、イベント参加者が増加傾向にあり、今後さらに集客を図るため、PRへの注力と参加者の意見やニーズを取り入れていくこととする。

自己評価

評価委員
会の意見

- ・たくさんの参加者があり、非常に評価できる
- ・木材利用の普及啓発イベントの参加者に対して、ひろがる京の木整備事業の周知を図るなど、実際の木材利用へと繋げていく取組が効果的

京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全 II 森林資源の循環利用 III 森林の重要性の啓発
事業名	IV 地域振興計画推進事業
事業概要	<p>1 目的</p> <p>地域の森林・林業の特色や課題に応じた広域振興局ならではの先導的な取組を推進する。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 山城広域振興局</p> <p>①モデルフォレスト運動参画促進事業 多様な主体による森林保全の取組を推進し、京都モデルフォレスト運動に参画する企業と緑の少年団との交流会を開催</p> <p>②山城産の木魅力発信事業 山城産木材の利用促進のため、府民を対象に林業体験や木工体験ができる森林・林業体感ツアーの開催。市町村職員等を対象に木材の利用を進める研修会を開催。山城地域で生産され、製材・加工された木製品を宇治庁舎に整備</p> <p>(2) 南丹広域振興局</p> <p>①「竹コミュニティ」推進事業 放置竹林を整備し、良質なマダケを安定供給するコミュニティ・ビジネスを確立することで、地域の「環境維持」を図るとともに、「林業労働者の冬季・悪天候時の仕事を創出し、「林業労働者の就労条件改善」に繋げるため、林業労働者による竹林整備・搬出を実施・検証</p> <p>(2) (3) 南丹広域振興局、中丹広域振興局（共同で実施）</p> <p>①「丹波くり」振興未来創造事業 里山林等の適正な管理を推進し、京のブランド産品「丹波くり」の生産を拡大するため、「丹波くり」栽培をリードする中核的生産者の育成を図る「丹波くりマイスター養成講座」の修了生を対象に、更なる技術力と指導力のレベルアップを図るため、先進地の視察やくり生産者への指導実習を実施</p> <p>(3) 中丹広域振興局</p> <p>①府内産木材需要拡大事業 子育て世代や子どもをターゲットとした木材をPRするイベント「もくフェスin中丹」を実施し、木材利用の気運を醸成し、住宅、家具、玩具等への木材利用を通じて府内産木材の需要を拡大</p> <p>②循環型林業未来創造事業 森林組合に主伐・再造林一貫作業を実施してもらい、その工程調査を実施 また、主伐再造林の現地検討会を開催</p> <p>(4) 丹後広域振興局</p> <p>①丹後魅力の森を育む担い手づくり事業 森林整備の担い手づくりや人材確保のため、森林への関心と愛着を持たせる取組を実施するとともに、丹後の森の魅力を発信し集客につなげる施設を整備</p>

3 事業実績（R5年度）

事業区分	事業費	主な内容
(1) 山城広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルフォレスト参画企業と緑の少年団の交流会 1回（51名） ・森林・林業体感ツアーの開催等 3回（73名）
(2) 南丹広域振興局	2,350千円	<ul style="list-style-type: none"> ・くり先進地の視察 2回（中丹と共同） ・林業労働者による竹林整備・竹材搬出
(3) 中丹広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> ・くり先進地の視察 2回（南丹と共同） ・もくフェスin中丹の実施 1回（約2500人） ・主伐再造林に係る工程調査及び現地検討会の開催 4箇所
(4) 丹後広域振興局	2,500千円	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な森林管理を学ぶセミナー開催 2回（49名） ・地域産木材の魅力発信及び地元高校生等への研修会を開催 4回（2,764名）



MF運動参画企業と緑の少年団との交流
（山城広域振興局）



森林・林業体感ツアー（京都大学材鑑調査室見学）
（山城広域振興局）



枯損竹伐採・林内整理実施状況
（南丹広域振興局）



丹波くりマイスター養成講座修了生技術向上研修
（南丹・中丹広域振興局）



主伐・再造林現地検討会
(中丹広域振興局)



もくフェス in 中丹
(中丹広域振興局)



森林適正管理セミナー実習
(丹後広域振興局)



丹後WOOD FESTIVAL
(丹後広域振興局)

1 全体の評価

地域の森林・林業の特色や課題に応じた広域振興局ならではの先導的な取組を実施することができた。本取組により森林保全や木材利用に対する府民の理解を深め、多様な主体の協働による森林保全の取組を推進するとともに、特用林産物の生産振興の基盤を構築することができた。

2 各広域振興局の評価

○山城局

①モデルフォレスト運動参画促進事業

参加した子どもの声：

- ・ノコギリで木を切るのが楽しかった。
 - ・植物の話がたくさん聞いて良かった。
- 森林・林業に興味や親しみを持ってもらうことができた。

②山城産の木魅力発信事業

森林・林業体感ツアー

参加者の声：

- ・今の林業の現状がよくわかった。何とかしていくのにどうすればよいか考えさせられた。
 - ・歴史的な（木と）人とのつながりを改めて思い返すことができた。
- 森林の大切さや木材利用への関心を深めることができた。

山城産木材の利用を進める研修会

参加した市町村職員の声：

- ・木材の温かみを感じることができ、木材利用を進めていく上で、まず木材と向き合える機会を増やすことが大切であると実感した。
- ・今後町内で公共施設等の建設事業がある際は山城産木材の利用等使用に盛り込んでもらえるよう、役場内で情報共有を図りたい。

今後も取組を継続することにより、モデルフォレスト運動参画企業とも連携を図り、森林整備や地域産材利用の意義の周知・啓発を図る。

自己評価

	<p>○南丹局</p> <p>①「竹コミュニティ」推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業事業体による竹林整備・竹材搬出を実施し、「作業効率」「作業技術」「採算性」を確認 <p>○南丹局、中丹局</p> <p>①「丹波くり」振興未来創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9名の中核的生産者に対して、現地視察や指導実習を通じて技術力を向上 ・修了生のネットワークを強化 ・今後も本事業を継続し、各地域に生産技術の要となる人材を育成 <p>○中丹局</p> <p>①府内産木材需要拡大事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者に木材の良さ等を実感してもらうことができた。(アンケート結果) <p>②循環型林業未来創造事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林組合等に主伐再造林への積極的な検討を促すことができた。(R5主伐再造林実績4箇所) <p><u>今後も本事業を継続し、各地域に生産技術の要となる人材を育成する。また、調査結果の詳細を把握・分析することにより長期の視点にたった振興計画を作成し、戦略的・計画的な振興を図る。</u></p> <p>○丹後局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・森林適正管理セミナーや林業木材研修会、木工体験会など開催し、森林への関心を高められた。 ・地域住民や地元高校生等、多様な主体の協働により森林の利用と保全活動を推進した。 ・丹後縦貫林道を活用するために利用者の要望に沿った案内看板の補強やオブジェを設置した。 <p>→ <u>セミナーや研修会など、人数を限定して開催しているため、今後はWEB開催等広く周知できる方法も検討が必要である。</u></p> <p>→ <u>人材不足に対応したICT機器の研修会等の開催要望への対応が必要である。</u></p> <p><u>今後も森林・林業・木材産業・建築業に関わる地域での取組を支援して、森林・林業や木材利用への関心を高める取組を継続し、森林や木に携わる人材の育成に繋げる。</u></p> <p>3 今後の事業の方向性</p> <p>各地域の特色や広域的な課題に取り組んでおり、引き続き効果的な事業を継続していく。今後は、地域課題の解決に向けた取組をより重点的に進める。</p>
<p>評価委員 会の意見</p>	<p>・イベントの参加者からは高い評価をもらっており、このまま続けることが妥当</p>

京都府豊かな森を育てる府民税事業成果

府民税 使途分野	I 森林の整備及び保全 II 森林資源の循環利用 III 森林の重要性の啓発																																																																																																																	
事業名	V 豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業																																																																																																																	
事業概要	<p>1 目的</p> <p>地域の課題に対し、市町村の創意工夫を凝らしたきめ細やかな取組により、効果的に森林の整備や木材利用を促進する。</p> <p>2 内容</p> <p>市町村が地域の課題に対し創意工夫して行う取組を交付金事業として支援する。 なお、交付金は、森林面積や人口などに応じて全市町村に配分する。</p> <p>(1) 交付金配分の算定基準 均等割(100万円) + 納税義務者割(1/3) + 森林面積割(1/3) + 人口割(1/3)</p> <p>(2) 交付金対象事業 3つの使途分野に係る事業であって、新規又は拡充の事業を対象とする。既存補助制度の適用が可能な事業や市町村において従来から行われてきた事業、<u>国の森林環境譲与税を活用して実施する事業と重複する内容の事業は対象としない。</u>また、<u>今期(R3-R7)対策では、防災・減災を目的とした森林整備等の重点的な取組に努めることとしている。</u></p> <p><市町村別交付金配分額(R5)> 単位：千円</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>市町村名</th> <th>配分額</th> <th>市町村名</th> <th>配分額</th> <th>市町村名</th> <th>配分額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>京都市</td> <td>76,239</td> <td>久御山町</td> <td>1,709</td> <td>京丹波町</td> <td>5,876</td> </tr> <tr> <td>向日市</td> <td>3,598</td> <td>井手町</td> <td>1,473</td> <td>福知山市</td> <td>11,815</td> </tr> <tr> <td>長岡京市</td> <td>4,881</td> <td>宇治田原町</td> <td>2,178</td> <td>舞鶴市</td> <td>9,245</td> </tr> <tr> <td>大山崎町</td> <td>1,790</td> <td>笠置町</td> <td>1,378</td> <td>綾部市</td> <td>7,007</td> </tr> <tr> <td>宇治市</td> <td>9,745</td> <td>和束町</td> <td>2,007</td> <td>宮津市</td> <td>3,826</td> </tr> <tr> <td>城陽市</td> <td>4,557</td> <td>精華町</td> <td>2,740</td> <td>京丹後市</td> <td>9,625</td> </tr> <tr> <td>八幡市</td> <td>4,210</td> <td>南山城村</td> <td>1,914</td> <td>伊根町</td> <td>1,954</td> </tr> <tr> <td>京田辺市</td> <td>4,472</td> <td>亀岡市</td> <td>7,610</td> <td>与謝野町</td> <td>3,306</td> </tr> <tr> <td>木津川市</td> <td>5,111</td> <td>南丹市</td> <td>11,721</td> <td>計</td> <td>199,987</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 事業実績(写真：別添のとおり)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業区分</th> <th colspan="2">市町村数</th> <th colspan="2">事業数</th> <th colspan="4">事業費(千円)</th> </tr> <tr> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>割合</th> <th>R5</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I 森林の整備及び保全</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>32</td> <td>31</td> <td>106,599</td> <td>60%</td> <td>103,648</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>II 森林資源の循環利用</td> <td>11</td> <td>15</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>60,192</td> <td>34%</td> <td>80,035</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>III 森林の重要性の啓発</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>11,195</td> <td>6%</td> <td>14,906</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> <td>41</td> <td>58</td> <td>61</td> <td>177,986</td> <td>100%</td> <td>198,589</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	市町村名	配分額	市町村名	配分額	市町村名	配分額	京都市	76,239	久御山町	1,709	京丹波町	5,876	向日市	3,598	井手町	1,473	福知山市	11,815	長岡京市	4,881	宇治田原町	2,178	舞鶴市	9,245	大山崎町	1,790	笠置町	1,378	綾部市	7,007	宇治市	9,745	和束町	2,007	宮津市	3,826	城陽市	4,557	精華町	2,740	京丹後市	9,625	八幡市	4,210	南山城村	1,914	伊根町	1,954	京田辺市	4,472	亀岡市	7,610	与謝野町	3,306	木津川市	5,111	南丹市	11,721	計	199,987	事業区分	市町村数		事業数		事業費(千円)				R4	R5	R4	R5	R4	割合	R5	割合	I 森林の整備及び保全	19	17	32	31	106,599	60%	103,648	52%	II 森林資源の循環利用	11	15	17	17	60,192	34%	80,035	40%	III 森林の重要性の啓発	7	9	9	13	11,195	6%	14,906	8%	計	37	41	58	61	177,986	100%	198,589	100%
市町村名	配分額	市町村名	配分額	市町村名	配分額																																																																																																													
京都市	76,239	久御山町	1,709	京丹波町	5,876																																																																																																													
向日市	3,598	井手町	1,473	福知山市	11,815																																																																																																													
長岡京市	4,881	宇治田原町	2,178	舞鶴市	9,245																																																																																																													
大山崎町	1,790	笠置町	1,378	綾部市	7,007																																																																																																													
宇治市	9,745	和束町	2,007	宮津市	3,826																																																																																																													
城陽市	4,557	精華町	2,740	京丹後市	9,625																																																																																																													
八幡市	4,210	南山城村	1,914	伊根町	1,954																																																																																																													
京田辺市	4,472	亀岡市	7,610	与謝野町	3,306																																																																																																													
木津川市	5,111	南丹市	11,721	計	199,987																																																																																																													
事業区分	市町村数		事業数		事業費(千円)																																																																																																													
	R4	R5	R4	R5	R4	割合	R5	割合																																																																																																										
I 森林の整備及び保全	19	17	32	31	106,599	60%	103,648	52%																																																																																																										
II 森林資源の循環利用	11	15	17	17	60,192	34%	80,035	40%																																																																																																										
III 森林の重要性の啓発	7	9	9	13	11,195	6%	14,906	8%																																																																																																										
計	37	41	58	61	177,986	100%	198,589	100%																																																																																																										
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・各市町村が森林の多面的機能の維持増進に向けて、<u>地域の特色・課題にあった事業を展開されている。</u> ・<u>森林の整備及び保全</u>については、作業路網の補修、間伐材の運搬支援などの森林整備に取り組んだほか、住宅や道路沿い、ハイキング道、森林公園等、<u>より市民の生活に近い箇所における危険木・風倒木の伐採・除去など、防災・減災対策を中心に取り組んだ。</u> ・<u>森林資源の循環利用</u>については、<u>市町村庁舎、小学校、保育施設、公園などの公共施設等の木質化を中心に取り組んでおり、府内産木材の利用の促進に繋がった。</u> ・<u>森林の重要性の啓発</u>については、<u>子供や地域住民を対象とした森林環境教育、森林ボランティア団体の活動支援を中心に取り組んでおり、森林の重要性について府民の理解を深めることができた。</u> ・公共事業で対応できないきめ細かな対応を府民税で実施することで、より効果が得られた。 																																																																																																																	

【上記数値となった理由】

- ・まとまった経費を確保するために、これまで積み立てていた基金を取り崩した市町村が増えたため、全体として事業費が増加した。
- ・Ⅱ. 森林資源の循環利用については、京都市が予算配分を増額変更したことや、基金を取り崩して「公共施設等の木質化・木製品導入」に充当する市町村が増えたため、事業費が増加した。

R4→R5：全額積立：4市町→0市町、積立額：22,004千円→9,935千円
基金取崩：4,939千円→8,538千円

【課題】

- ・府民税は「防災対策」や「府民が広く利用する施設の木質化」等に、森林環境譲与税は「手入れ不足の人工林の森林整備」に活用することで、用途の役割分担を行っているが、一部市町村においては、説明に苦慮する様なケースが見受けられ、画税の適正な執行が求められている。

【今後の事業の方向性】

- ・府民税の3つの用途の内容や各市町村の方向性を踏まえ、事業計画を慎重に審査し、適正に執行されるよう、技術的助言を引き続き実施していく。
- ・今年度からは、森林環境税の徴収が始まり、府民の皆様の理解を得た上で、取組を進める必要があることから、画税の役割分担については、明確な方針を定めていくことが求められるため、市町村交付金については、まずは、活用状況について調査を行うなど、実態の把握を行うこととする。

- ・専門職員が非常に少ない、または不在で実行体制が充分でない市町村へは、府が積極的にサポートしていくことが必要

評価委員
会の意見

豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業 実績写真について



山城地域

① 森林の整備・保全の推進

宇治田原町 保育間伐の実施



② 森林資源の循環利用の促進

井手町 府内産木材を活用した看板



京田辺町 公園のバーゴラ新調



木津川市 相楽小学校への木製品の整備



八幡市 木製幼児用ロッカーの設置



③ 森林の重要性の啓発

久御山町 自然観察会の開催



精華町 小学生への森林環境教育



京都林務地域

① 森林の整備・保全の推進

長岡京市 拡大竹林の伐採・整理



京都市 台風被害木の搬出支援



② 森林資源の循環利用の促進

京都市 市内産木材を活用した木質化支援



③ 森林の重要性の啓発

大山崎町 森林ボランティア団体の養成



南丹地域

① 森林の整備・保全の推進

南丹市 集落に隣接する里山林の整備支援

実施前



実施後



③ 森林の重要性の啓発

京丹波町 小学生への森林環境教育



中丹地域

② 森林資源の循環利用の促進

綾部市 府内産材を活用した木製品の設置



③ 森林の重要性の啓発

福知山市 「やくの森」木育キャラバン



福知山市 大江山トレイルラン教室



① 森林の整備・保全の推進

京丹後市 人家の近くに隣接する危険木除去の支援

実施前



実施後



③ 森林の重要性の啓発

京丹後市 森林環境学習の支援



令和5年度豊かな森を育てる府民税市町村交付金事業 実績一覧

(千円)

市町村名	主な事業内容 (凡例) ①: 森林の整備・保全、②: 森林資源の循環利用推進、③: 森林の重要性の啓発	計
京都市	①林道の補修支援、②ウッドチェンジ推進事業、②市内産木材の利用推進 など	76,239
向日市	①放置竹林対策	3,598
長岡京市	①拡大竹林の整備、①危険木・風倒木の処理	4,881
大山崎町	①放置竹林対策、③森林ボランティア養成、③森林環境教育 など	1,790
宇治市	①危険木、風倒木の処理、②府内産木材の利用推進	9,745
城陽市	②府内産木材の利用推進	4,557
八幡市	②府内産木材の利用推進	4,210
京田辺市	②府内産木材の利用推進	4,472
木津川市	①森林整備に係る調査、②府内産木材の利用推進、③森林ボランティア支援	5,111
久御山町	②府内産木材の利用推進、③森林環境学習会の開催	1,709
井手町	②府内産木材の利用推進	1,473
宇治田原町	①除伐・保育間伐の実施、②府内産木材の利用推進	2,178
笠置町	①間伐の支援	1,378
和束町	②府内産木材の利用推進	2,007
精華町	①危険木の処理、③森林環境教育プログラム	2,740
南山城村	②府内産木材の利用推進	1,914
亀岡市	①林道の点検・補修、①土木積算システム導入、②薪ストーブ等購入 など	7,610
南丹市	①里山林の整備 など	11,721
京丹波町	③森林環境教育	5,876
福知山市	②丹波くりの生産拡大、③千年の森づくり事業 など	11,815
舞鶴市	①林業機械等の整備支援、①治山施設整備のための測量 など	9,245
綾部市	①作業道の補修、①森林GIS維持管理、②府内産木材の利用推進	7,007
宮津市	①林道の改良、①放置竹林対策 など	3,826
京丹後市	①里山林の整備、①危険木の処理、①森林病虫害・野生鳥獣被害対策事業 など	9,625
伊根町	①林道の改良	1,954
与謝野町	①林道の改良、①里山林の整備	3,306
計		199,987

※基金への積み立て額含む



京都府内産木材認証制度標章

豊かな森を育てる府民税ホームページ

<https://www.pref.kyoto.jp/shinrinhozen/tax.html>

◎お問い合わせ

京都府 農林水産部林業振興課森林政策・流通係

〒602-8570

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

電話：075-414-5016 FAX：075-414-5010

E-mail：ringyoshinko@pref.kyoto.lg.jp

